

4. Am J Ophthalmol. 2023 Feb;246:242-250.

Cerebrospinal Fluid Interleukin-10 Biomarker for Vitreoretinal Lymphoma

Xiao Zhang, Yan Zhang, Zhe Zhuang, You-Xin Chen, Wei Zhang, Mei-fen Zhang

DOI:<https://doi.org/10.1016/j.ajo.2022.10.009>

網膜硝子体リンパ腫 (VRL) は眼内悪性リンパ腫の中で最も頻度の高いタイプです。眼内悪性リンパ腫の診断には眼内液の細胞診や IL-10/IL6 比、遺伝子再構成、フローサイトメトリーなどの検査が有用であり、特に IL-10/IL6 比は感度も高く診断のカギとなります。VRL は中枢神経系原発悪性リンパ腫の亜型であるため、本研究では脳脊髄液(CSF)に着目して IL-10 と VRL の関連について解析を行いました。

CSF の IL-10 は VRL の 90% の患者で上昇しており、全身治療後には減少していました。また、IL-10 の値は中枢病変のある患者ではない患者に比べて上昇していました。CSF の IL-10 の値は前房水の IL-10 値とは関連が無く、また、前房内の炎症や網膜病変とも関連はみられませんでした。以上より、CSF の IL-10 値を測定することは頭蓋内への浸潤などのモニタリングに重要であると結論づけられています。

当院では、眼内悪性リンパ腫のメソトレキサートの硝子体注射治療後の寛解や寛解維持の判定のために、定期的に前房水を採取し IL-10/IL-6 比を測定しています。眼内悪性リンパ腫の生命予後に大きく関わるのは頭蓋内浸潤であることを考えますと、今後は内科と連携して CSF の IL-10 測定も検討していきたいと思えます。

(文責： 横浜市立大学 竹内 正樹)